

「関東大震災映像デジタルアーカイブ」に新規作品を追加

『大正拾貳年九月一日 猛火と屍の東京を踏みて』公開のお知らせ



左：『大正拾貳年九月一日 猛火と屍の東京を踏みて』1923年 焼失した如水会館と崩落した一ツ橋
右：『大正拾貳年九月一日 猛火と屍の東京を踏みて』1923年 壊滅した浅草六区の劇場街

いつもお世話になっております。このたび、WEB サイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）では、新たに『大正拾貳年九月一日 猛火と屍の東京を踏みて』を公開いたします。

『大正拾貳年九月一日 猛火と屍の東京を踏みて』（10分 | 1923年 | 白黒）

当時、大阪・天王寺に所在した映画製作会社、ハヤカワ芸術映画製作所が、2名の撮影技師を東京に派遣し、被災した街の姿を収めた記録映画。名所を巡る東京見物的な性格を有するがゆえに、吉原の焼跡など、この作品にしか存在が認められない貴重な映像が残されている。元素材となる可燃性フィルムの溶解により、エンドが確認できず、作品の全体像は掴めない。

「関東大震災映像デジタルアーカイブ」とは (<https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>)

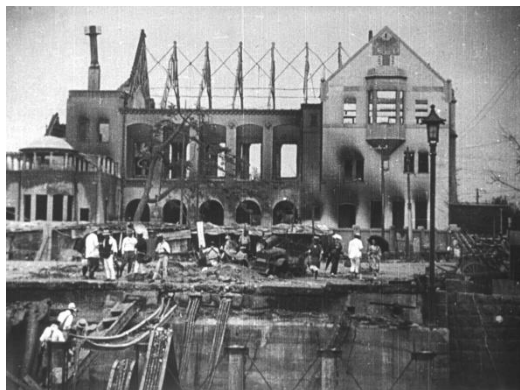
- ★1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災について、当館が所蔵する関連の映画フィルムなどの資料を公開するWEBサイト（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）。
- ★「撮影場所」、「シーン（写されている事象）」で分類された「クリップ」単位での検索・閲覧が可能で、作品のディテールをより深く、横断的に見るできるようになっています。
- ★関東大震災発生から100年にあたる2023年9月1日までに、当館で所蔵する関東大震災関連の全ての映画フィルムの公開を目指しています。
- ★『「関東大震災映像×専門知」によるコラムのページ』と題し、分野の異なる専門家が関東大震災映像を読み解くコラムの掲載し、随時更新しています。
- ★サイトで公開している関東大震災関連の映像に関する資料や、関東大震災と映像との関係を考えるうえで助けとなる資料を掲載し、随時更新しています。現在は、『関東大震災大火実況』の弁士台本など4点を公開中。

つきましては、ぜひとも本サイトのご紹介をご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当
電話：03-3561-0823 / FAX：03-3561-0830 / E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp

『大正拾貳年九月一日 猛火と屍の東京を踏みて』クリップ一覧



場所：千代田／シーン：焼失,倒潰・損壊

1919年竣工の曾禰達蔵設計による東京高等商業学校同窓会の如水会館の被災と、日本橋川に架かる一ツ橋の落橋を写す。



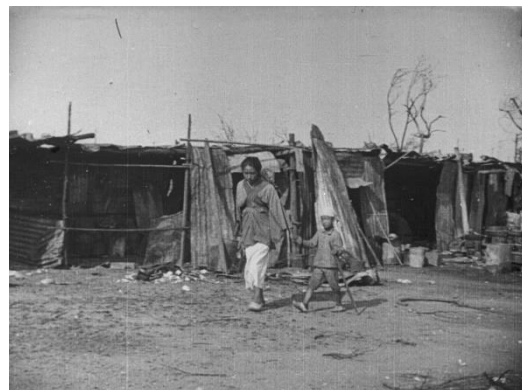
場所：台東／シーン：焼失,倒潰・損壊

浅草公園内の瓢箪池を左手に見ながら、六区劇場街の壊滅的な惨状を捉えている。



場所：台東／シーン：救助・救護・救援,避難生活の場

浅草寺本堂（観音堂）前で、列をなして食料を求めている女性や子供たちの姿を収めている。列の脇に米俵が山と積まれている光景が印象的。



場所：台東／シーン：避難,救助・救護・救援,避難生活の場

避難用の仮小屋と八百屋の立売所が並ぶ道の人々が行き交う。赤子を負ぶった母と子が歩いていく姿をカメラは追っている。



場所：台東／シーン：焼失,倒潰・損壊

福地櫻痴揮毫による書が彫られた大門の門柱越しに見る、焼野原となった吉原の惨状。吉原病院も灰燼に帰した。



場所：中央／シーン：焼失,倒潰・損壊

日本橋の浜町川に架かっていた鞍掛橋越しに見る焼野原となった西岸の光景。橋詰で復旧に当たっている多くの人の姿も目にすることができる。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当
電話：03-3561-0823／FAX：03-3561-0830／E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp